

令和5年度 第2回 八尾市地域ケア連絡協議会 会議資料

資料1 令和5年度地域ケアケース会議報告

- ◇ 地域ケアケース会議合同定例会 . . . P. 1
- ◇ 地域ケアケース会議発言要旨 . . . P. 2 ~ 3
- ◇ 地域ケアケース会議随時会議 . . . P. 4 ~ 10

資料2 令和5年度高齢者虐待について（中間報告）

- ◇ 養護者による虐待集計 . . . P. 11 ~13

資料3 令和6年度地域ケアケース会議について

- ◇ 地域ケアケース会議の体制（案） . . . P. 14
- ◇ 地域ケア会議の方向性（案） . . . P. 15
- ◇ 地域ケア会議 年間予定表（案） . . . P. 16

資料4 令和5年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書（中間報告）

令和5年度八尾市認知症初期集中支援事業実施報告書（中間報告）

チームオレンジ活動について（中間報告）

. . . P. 17 ~ 20

資料5 令和5年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書（中間報告）

. . . P. 21 ~ 22

令和6年3月

令和5年度 地域ケアケース会議合同定例会

第1回地域ケアケース会議合同定例会

開催日時	令和5年5月18日(木) 14:00 ~ 16:00
場 所	八尾市文化会館プリズムホール 4階会議室1
内 容	(1) 令和4年度第2回 地域ケア連絡協議会の報告及び 令和5年度地域ケアケース会議の方向性について (2) 地域ケアケース会議の事務局紹介 (3) 合同学習会 ①令和4年度高齢者あんしんセンターの取り組み報告 テーマ「独居や身寄りのない方などの救急要請の課題について」 報告者：志紀中学校区高齢者あんしんセンター楽寿 曙川南中学校区高齢者あんしんセンター緑風園 大正中学校区高齢者あんしんセンターあおぞら テーマ「人生会議について」 報告者：高安中学校区高齢者あんしんセンター寿光園 南高安中学校区高齢者あんしんセンター信貴の里 東中学校区高齢者あんしんセンター中谷 ②八尾市認知症地域支援推進員活動報告 テーマ「オレンジパトロールについて」 報告者：八尾市認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏 (4)各圏域にて意見交換会
対 象 者：	八尾市地域ケアケース会議委員
参加人数：	93名

ブロック	中部(第4圏域)	東部(第5圏域)
事務局	長生園・サポートやお・成法苑	寿光園・信貴の里・中谷
テーマ (事例検証)	特殊詐欺について	人生会議の啓発について
課題	・地域の力、近所付き合いが減っており、さらに個人情報情報が壁で堅に相談ができない。 ・一人暮らしだと情報が入りにくい。 ・自分は太丈夫、騙されないといい込みがあるのではないかと。 ・高齢者特有の価値観がある。銀行や警察などの公的機関からの電話は信用できると思いやすい。 ・人付き合い、近所付き合いが少なく、地域のつながりが希薄になっしている。近所付き合いが見守りができない、地域住民同士で情報共有ができない。 ・見守りの仕組みがない。支援者も見守りにもっと積極的に入っていければ異変に早く気付くことができるのではないかと。 ・高齢者の色々な問題や課題について、関係機関がそれぞれ単独で課題にかかわっていくのではなく、解決策の検討や情報を共有してチームとして対応していく必要がある。	・昨年度も同テーマを取り扱い、事務局にて啓発チラシを作成して地域住民や関係機関に出向いての配布等を行ったが、 ・高齢者に対して人生会議を切り出すきっかけを見つけない。 ・親子でも財産について子から切り出すのに遠慮してしまう。 ・啓発後、実際に人生会議を行ったか尋ねた人が行った人はいなかった。 ・必要性を感じてもタイミングがないとの声が多かった。 ・人生会議に関するツールは各自治体から出されているが認知度は低いと思われる。実際に記入して、書きづらいことが分かった。年齢により項目も変わるのではないかと、とも思う。 ・人生の最期を迎えるということはまだまだ想像しにくい。 ・高齢者だけでなく若年層への啓発も必要ではないか。 ・まだまだ認知度が低い。日常生活の多くの場面で目に留まるように資料掲示などを積極的に行う必要がある。などの意見が等がっていた。
まとめ	令和4年度に地域ケアケース会議で取り上げてほしいテーマについて委員にアンケートを行ったところ、特殊詐欺が増えているの詳しく知りたいとの意見があり、全国的にも特殊詐欺が急激に増えており身近な問題になっていくことから、今年度は特殊詐欺についてテーマに会議を進めていくこととした。特殊詐欺だけでなく消費者被害についても議題に上げて会議を行ったが、どちらも若い世代ではなく高齢者が被害に遭いやすい傾向にある。理由としては、身近に相談できる人がいない、他者とのつながりが薄く誰かに話せない環境や、加齢からくる判断力の低下といった特性も影響している。特殊詐欺・消費者被害はどちらも完全に防ぐことは難しいかもしれないが、地域での見守りや気付きがあることで被害を未然に防ぐことができたり、被害に遭っても解決につながることで被害を未然に防ぐことができたり、被害を防ぐことにもつながると思われる。高齢者自身が気を付けるための啓発はもちろん大事だが、高齢者にかかわる関係機関も地域の見守りネットワークの一員である意識を持ち、異変に気付く目を持つことが大切である。引き続き、地域ケアケース会議を通じて関係機関同士の顔の見える関係づくり、情報共有を行い、地域を支えるネットワークの構築・強化を進めていく。	・厚生労働省の啓発動画等を全員で視聴するなど、人生会議の啓発を進める意識を改めて共有。 ・地域住民にもその意識を持ってもらうための方法について議論を重ね、八尾市第5圏域独自の人生会議記録シートのサンプルを作成して実際に記入してもらい、その後に出た意見をもとに工夫を重ねてシートを完成させた。 ・関係機関への啓発資料提示依頼や市へホームページ活用等も提言するなど、より一層の認知度向上を図り、誰もが「もしものとき」に直面しても自身が望む形で過ごし、自分らしく最期を迎えられることを目指す。

ブロック	中部(第4圏域)	東部(第5圏域)
事務局	長生園・サポートやお・成法苑	寿光園・信貴の里・中谷
テーマ (事例検証)	特殊詐欺について	人生会議の啓発について
課題	・地域の力、近所付き合いが減っており、さらに個人情報や壁で気軽に相談ができない。 ・一人暮らしだと情報が入りにくい。 ・自分は大丈夫、騙されないといい込みがあるのではないかな。 ・高齢者特有の価値観がある。銀行や警察などの公的機関からの電話は信用できると思いがやすい。 ・人付き合い、近所付き合いが少なく、地域のつながりが希薄になっているのでお互いに見守りができない、地域住民同士で情報共有ができない。 ・見守りの仕組みがない。支援者も見守りにもっと積極的に入っていければ異変に早く気付くことができるのではないかな。 ・高齢者の色々な問題や課題について、関係機関がそれぞれ単独で課題にかかわっていくのではなく、解決策の検討や情報を共有してチームとして対応していく必要がある。	昨年度も同テーマを取り扱い、事務局にて啓発チラシを作成して地域住民や関係機関に出向いての配布等を行ったが、 ・高齢者に対して人生会議を切り出すきっかけを見付けにくい。 ・親子でも財産について子から切り出すのに遠慮してしまう。 ・啓発後、実際に人生会議を行ったか尋ねたが行った人はいなかった。 ・必要性を感じてもタイミングがないとの声が多かった。 ・人生会議に関するツールは各自治体から出されているが認知度は低いと思われる。実際に記入して、書きづらいことが分かった。年齢により項目も変わるのではないかな、とも思う。 ・人生の最期を迎えるということはまだまだ想像しにくい。 ・高齢者だけでなく若年層への啓発も必要ではないかな。 ・まだまだ認知度が低い。日常生活の多くの場面で目に留まるように資料掲示などを積極的に行う必要がある。などの意見が挙がっていた。
まとめ	令和4年度に地域ケアケース会議で取り上げてほしいテーマについて委員にアンケートを行ったところ、特殊詐欺が増えているので詳しく知りたいとの意見があり、全国的にも特殊詐欺が急激に増えており身近な問題になっていることから、今年度は特殊詐欺についてテーマに会議を進めていくこととした。特殊詐欺だけでなく消費者被害についても議題に上げて会議を行ったが、どちらも若い世代ではなく高齢者が被害に遭いやすい傾向にある。理由としては、身近に相談できる人がいない、他者とのつながりが薄く誰かに話せない環境や、加齢からくる判断力の低下といった特性も影響している。特殊詐欺・消費者被害はどちらも完全に防ぐことは難しいかもしれないが、地域での見守りや気付きがあることで被害を未然に防ぐことができたり、被害に遭っても解決につなぐことができたり、他の人が被害に遭うことを防ぐことにもつながると思われる。高齢者自身が気をつけるための啓発はもちろん大事だが、高齢者にかかわる関係機関も地域の見守りネットワークの一員である意識を持ち、異変に気付く目を持つことが大切である。引き続き、地域ケアケース会議を通じて関係機関同士の顔の見える関係づくり、情報共有を行い、地域を支えるネットワークの構築・強化を進めていく。	・厚生労働省の啓発動画等を全員で視聴するなど、人生会議の啓発を進める意識を改めて共有。 ・地域住民にもその意識を持ってもらうための方法について議論を重ね、八尾市第5圏域独自の人生会議記録シートのサンプルを作成して実際に記入してもらい、その後に出た意見をもとに工夫を重ねてシートを完成させた。 ・関係機関への啓発資料掲示依頼や市へホームページ活用等も提言するなど、より一層の認知度向上を図り、誰もが「もしものとき」に直面しても自身が望む形で過ごし、自分らしく最期を迎えられることを目指す。

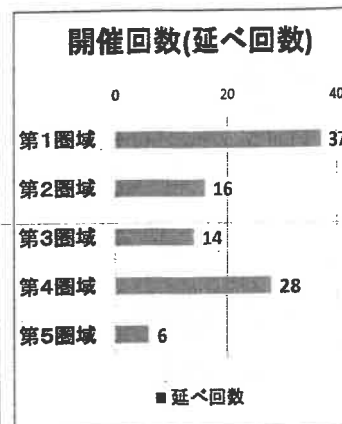
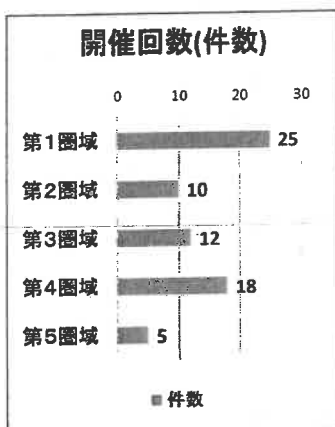
令和5年度地域ケアケース会議随時会議

R5年12月末現在

1. 随時会議の開催状況・内訳

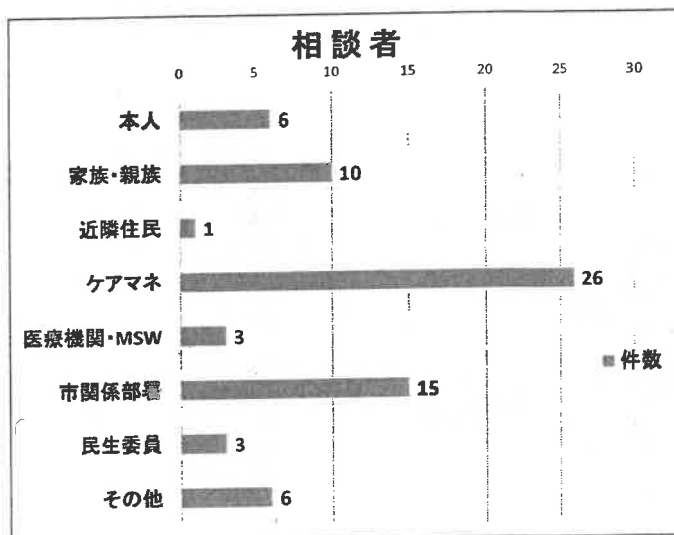
【開催回数】

	件数	延べ回数
第1圏域	25	37
第2圏域	10	16
第3圏域	12	14
第4圏域	18	28
第5圏域	5	6
合計	70	101



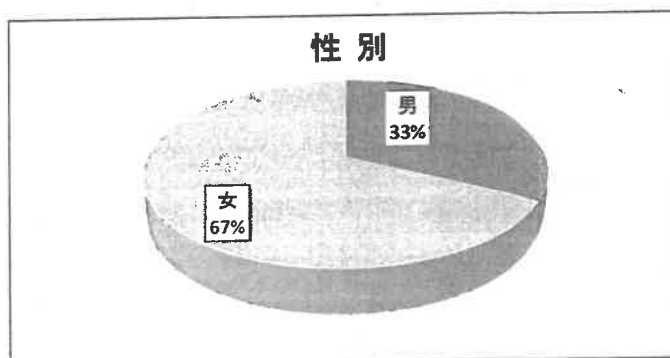
【相談者】

相談者	件数
本人	6
家族・親族	10
近隣住民	1
ケアマネ	26
医療機関・MSW	3
市関係部署	15
民生委員	3
その他	6
計	70



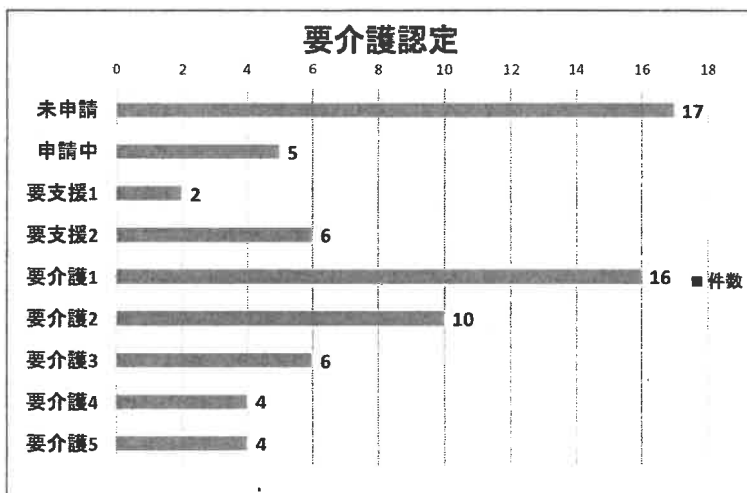
【性別】

性別	件数
男	23
女	47
計	70



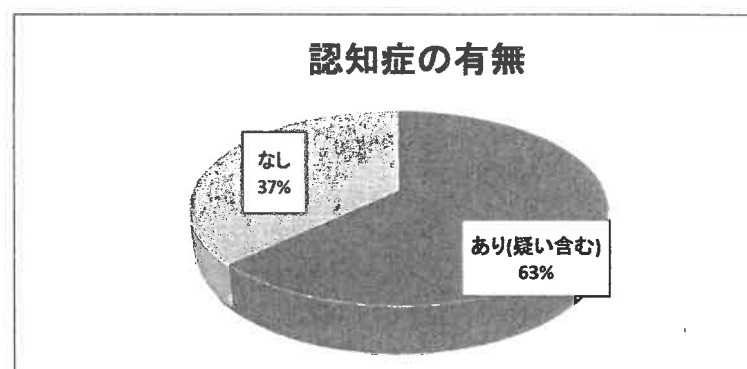
【要介護認定】

介護認定	件数
未申請	17
申請中	5
要支援1	2
要支援2	6
要介護1	16
要介護2	10
要介護3	6
要介護4	4
要介護5	4
計	70



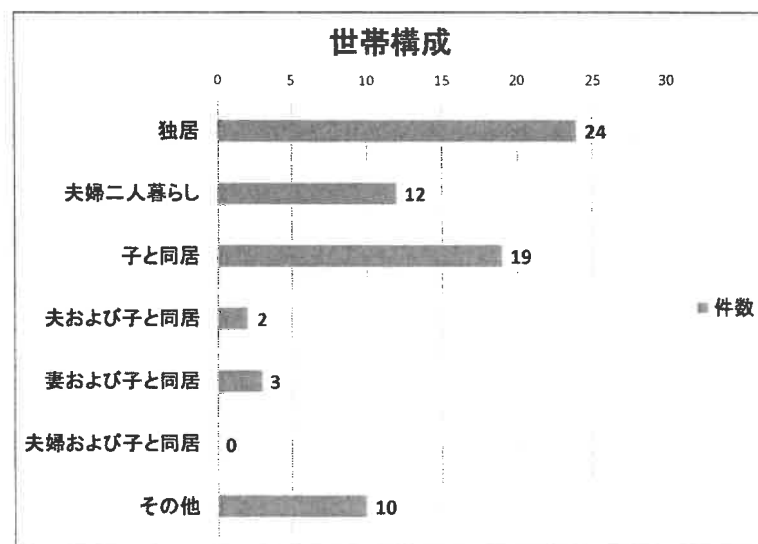
【認知症の有無】

認知症	件数
あり(疑い含む)	44
なし	26
計	70



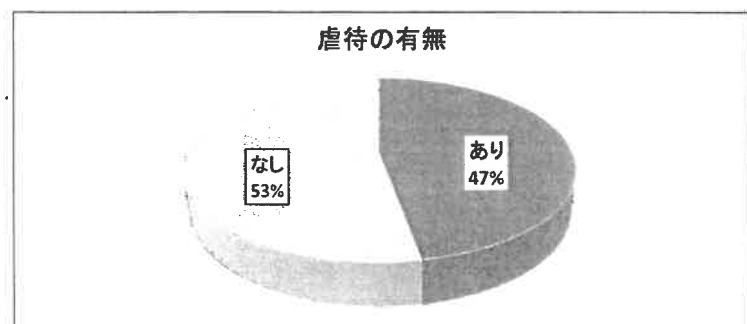
【世帯構成】

構成	件数
独居	24
夫婦二人暮らし	12
子と同居	19
夫および子と同居	2
妻および子と同居	3
夫婦および子と同居	0
その他	10
計	70



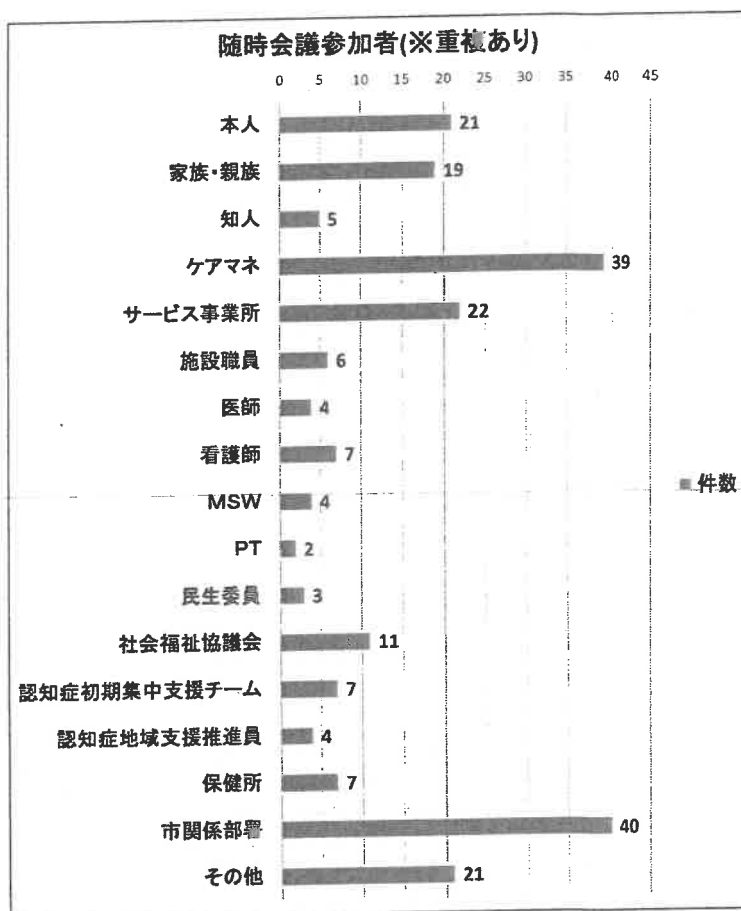
【虐待の有無】

虐待通報	件数
あり	33
なし	37
計	70



【随時会議参加者 ※重複あり】

参加者	件数
本人	21
家族・親族	19
知人	5
ケアマネ	39
サービス事業所	22
施設職員	6
医師	4
看護師	7
MSW	4
PT	2
民生委員	3
社会福祉協議会	11
認知症初期集中支援チーム	7
認知症地域支援推進員	4
保健所	7
市関係部署	40
障がい福祉課	6
生活福祉課	19
高齢介護課	7
地域共生推進課	7
出張所等	1
その他	21
計(延べ件数)	222



2. 随時会議の経年推移

【件数】

	R3年度	R4年度	R5年度
随時会議	72	76	70
自立支援型	14	12	7
生活援助	2	5	1

【回数】

	R3年度	R4年度	R5年度
随時会議	105	94	101
自立支援型	2	4	3
生活援助	1	3	1

※令和5年度については令和5年12月末現在

令和5年度 地域ケアケース会議(地域の実態把握)

地域の実態把握のために、事務局である高齢者あんしんセンターが地域の関係機関などに積極的に出向き、地域の高齢者に関する実態や社会資源の情報収集を行い、地域ケアケース会議に、その意見をあげていくように努めている。

内容

- ① 地域の現状の把握 ② 社会資源情報の集約及び提供

現状

- ① 地域ケアケース随時会議(地域の実態把握)

【会議を行った団体数】

テーマ 圏域	認知症	見守り	介護予防	地域連携	防災	その他 (※)
1 圏域	17	17	15	10	2	16
2 圏域	8	15	47	26	3	1
3 圏域	10	21	18	15	1	3
4 圏域	27	9	21	12	3	15
5 圏域	15	19	25	16	0	1

※その他内訳

地域の情報収集、世代間交流、居場所づくり、特殊詐欺、安全対策等

※団体の詳細については、別紙参照

② 合同専門職会議

高齢者あんしんセンターでは、職種にこだわることなく、それぞれの専門性を活かした視点から「課題の共有」、「職種間の意思疎通」、「チームアプローチの実践」を目的に各テーマを設定し、合同専門職会議を開催している。

「地域支援ネットワークづくり会議」では、地域の様々な課題に対し地域や各関係機関と連携を図りながら、その解決を目指す取り組みを行っている。

「介護予防推進会議」では、自立支援に向けて高齢者・ケアマネジャー・サービス提供事業者の意識を高める取り組みを行っている。

「ケアマネジャー連携会議」では、ケアマネジャーとのより深い連携を目指した取り組みを行っている。

③ 高齢者虐待ケース全体評価会議(レビュー会議)

高齢者虐待情報を一元的に管理し、地域的な傾向の把握、ケースに共通する課題や地域課題の抽出、虐待防止に向けた地域づくりや体制を整えることを目指し、「レビュー会議」を開催している。

まとめ

高齢者あんしんセンターが地域に出向き、関係機関等と意見交換を行うことで、地域の課題の把握に努めている。地域での会議内容で多いものは「介護予防」「見守り」「地域連携」といったテーマが多く、地域の関心の高さがみられた。「介護予防」「見守り」においては前年度においても関心が高いテーマとして挙がっており、より地域の関心の高さが伺える。

合同専門職会議においては各、会議でテーマを設定し、介護予防を目的とした研修会の開催や居宅介護支援事業所との事例検討会、他機関との意見交換会の開催に繋げている。

高齢者虐待の傾向からは虐待発生の背景には、精神疾患や世代間・家族間の複雑さ等、複合的な多くの課題を抱えるケースが多くみられる。

複合的な課題においては各分野別の制度だけでは対応しきれないケースが発生しており、課題解決には高齢者あんしんセンターと関係機関において課題の共有と連携が求められる。保健・福祉・医療・及び地域との円滑な調整を図りながら、認知症支援にかかる関係機関との連携等を通じ、複数の課題の共有と解決に向け、地域ケアケース会議を多職種連携の場としてより充実させ、高齢者をとりまく関係機関と連動した取り組みを実践していく。

* 会議を行った団体・開催回数

テーマ：認知症	萱	ス北	ス八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会															
地区福祉委員会										1					
民生委員・児童委員協議会							7	1		1			3		3
地区自治振興委員会					1								1		
高齢クラブ					1										
自主活動グループ						4									
認知症カフェ	6									2	5				8
その他	3	3	5	2				2		3	15				

合計 77

テーマ：見守り	萱	ス北	ス八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会	2		3							1					5
地区福祉委員会	1		2		1	8	6	5		2				1	
民生委員・児童委員協議会	8				1	1	7	2		2		1	3	8	
地区自治振興委員会										2			1	1	
高齢クラブ			1												
自主活動グループ						4		1		1					
その他															

合計 81

テーマ：介護予防	萱	ス北	ス八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会			1			2					11				3
地区福祉委員会			6	8	3	14	6			2		4			3
民生委員・児童委員協議会							7						3		
地区自治振興委員会													1		1
高齢クラブ										1				3	5
自主活動グループ	8			12		8	4	1		2			3	2	1
その他										1					

合計 126

テーマ：地域連携	萱	ス北	ス八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会				1		2				4					
地区福祉委員会	1	3				14				3				1	
民生委員・児童委員協議会				1			7		1	1			3	8	1
地区自治振興委員会										2			1	1	
高齢クラブ			1												1
自主活動グループ						8	4			2					
その他	2	3						3							

合計 79

テーマ：防災	萱	ス北	ス八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会	1									1	1				
地区福祉委員会			1			2									
民生委員・児童委員協議会															
地区自治振興委員会															
高齢クラブ															
自主活動グループ										1					
その他				1			1								

合計 9

テーマ：その他 (地域の情報収集、世代間交流、居場所づくり、特殊詐欺、安全対策)	萱	ス北	ス八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会											4				
地区福祉委員会	1					1									
民生委員・児童委員協議会													1		
地区自治振興委員会										1					
高齢クラブ															
自主活動グループ															
その他	14	1						3		10					

合計 36

令和5年度 高齢者虐待について

R5年12月末現在

1. 養護者による虐待通報件数・内訳(在宅)

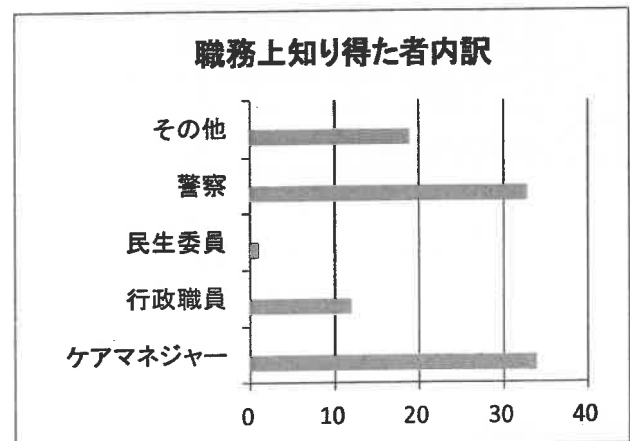
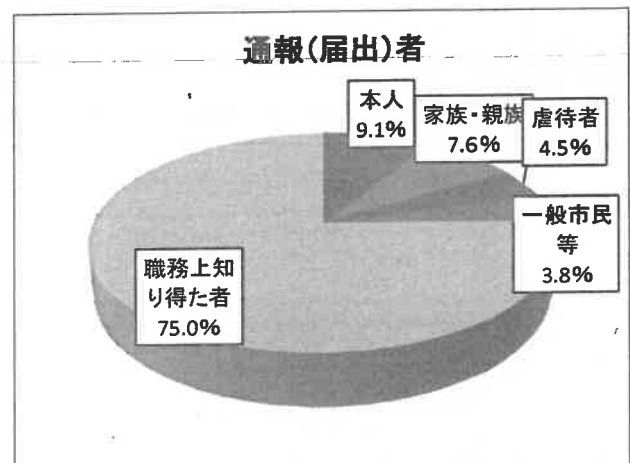
①通報(届出)件数・通報(届出)者

【通報(届出)件数】

	件数
通報(届出)	124
事実確認	124
うち、虐待認定数	83

【通報(届出)者】

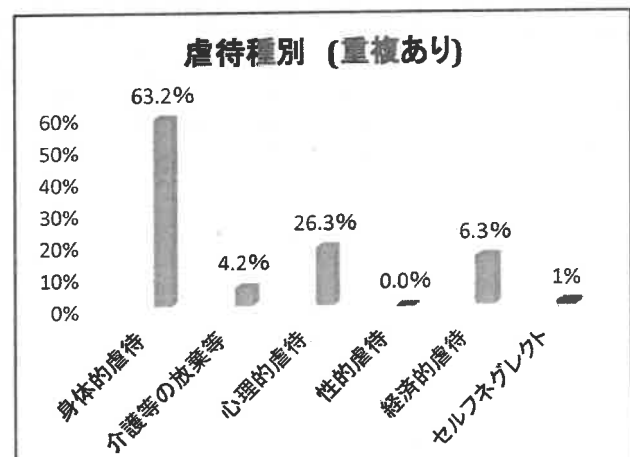
相談者	件数	比率
本人	12	9.1%
家族・親族	10	7.6%
虐待者	6	4.5%
一般市民等	5	3.8%
職務上知り得た者	99	75.0%
ケアマネジャー	34	25.8%
行政職員	12	9.1%
民生委員	1	0.8%
警察	33	25.0%
その他	19	14.4%
計(※重複あり)	132	100.0%



②虐待有の内訳

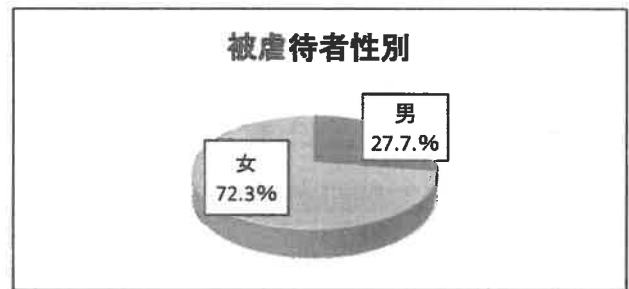
【虐待種別】(※虐待有83件の内訳)

相談者	件数	比率
身体的虐待	61	59.2%
介護等の放棄等	6	5.8%
心理的虐待	19	18.4%
性的虐待	0	0.0%
経済的虐待	16	15.5%
セルフネグレクト	1	1.0%
計(※重複あり)	103	100.0%



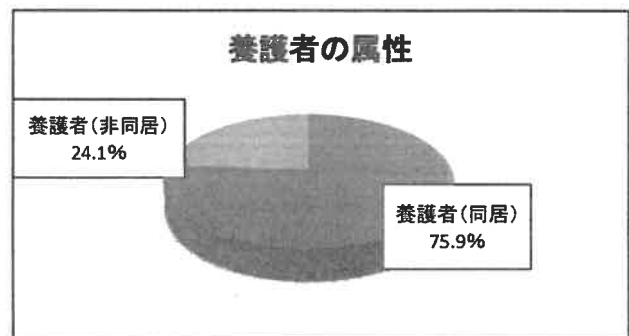
【被虐待者性別】

性別	件数	比率
男	23	27.7%
女	60	72.3%
計	83	100.0%



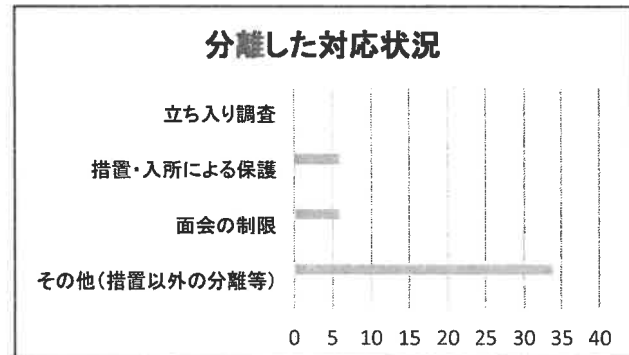
【養護者の属性】

属性	件数	比率
養護者(同居)	63	75.9%
養護者(非同居)	20	24.1%
計	83	100.0%



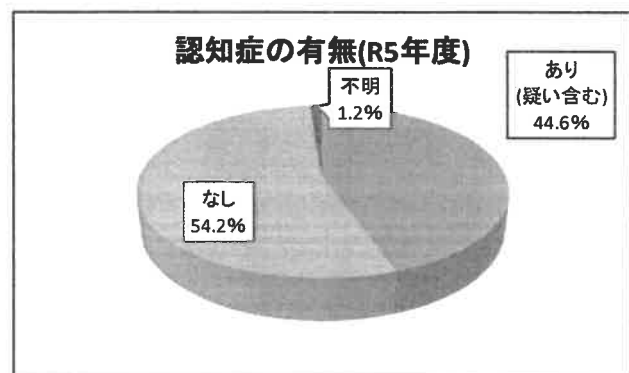
【分離した対応状況】

対応状況	件数
立ち入り調査	0
措置・入所による保護	6
面会の制限	6
その他(措置以外の分離等)	34



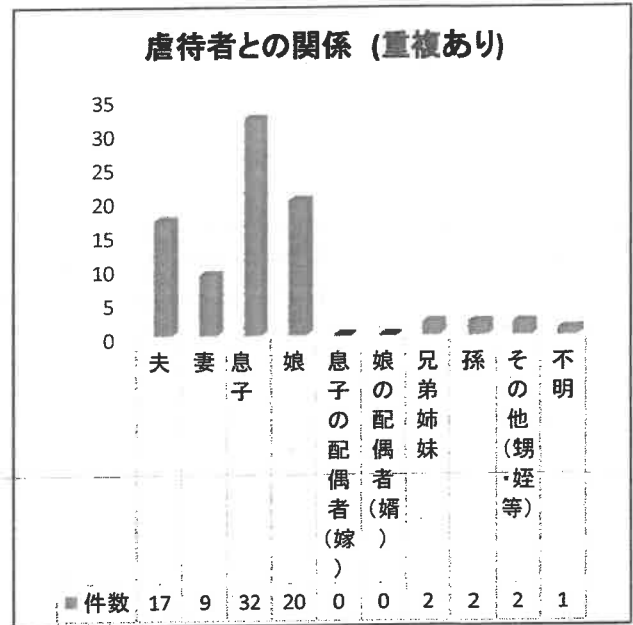
【認知症の有無】

認知症	件数			比率
	R3	R4	R5	R5
あり(疑い含む)	60	42	37	44.6%
なし	26	35	45	54.2%
不明	0	1	1	1.2%
計	86	78	83	100.0%



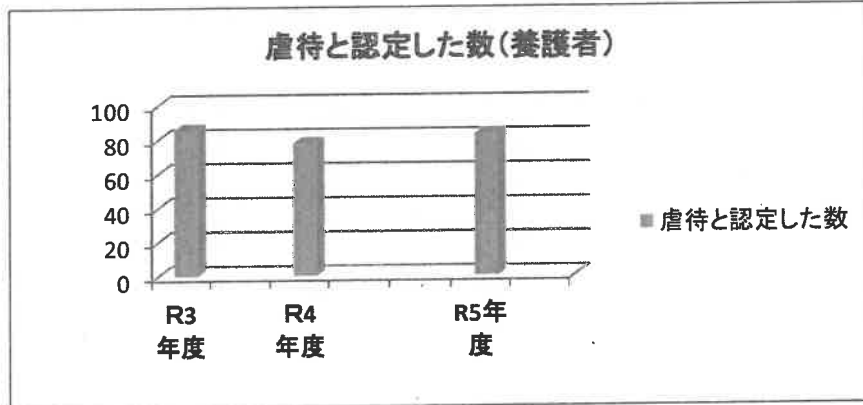
【虐待者との関係】(※虐待有83件の内訳)

虐待者との関係	件数	比率
夫	17	20.0%
妻	9	10.6%
息子	32	37.6%
娘	20	23.5%
息子の配偶者(嫁)	0	0.0%
娘の配偶者(婿)	0	0.0%
兄弟姉妹	2	2.4%
孫	2	2.4%
その他(甥・姪等)	2	2.4%
不明	1	1.2%
計(※重複あり)	85	100.0%



2. 虐待通報件数及び認定数の経年推移

種類		R3年度	R4年度	R5年度
養護者	通報(届出)件数	162	139	124
	虐待と認定した数	86	78	83
施設	通報(届出)件数	11	12	14
	虐待と認定した数	5	6	2



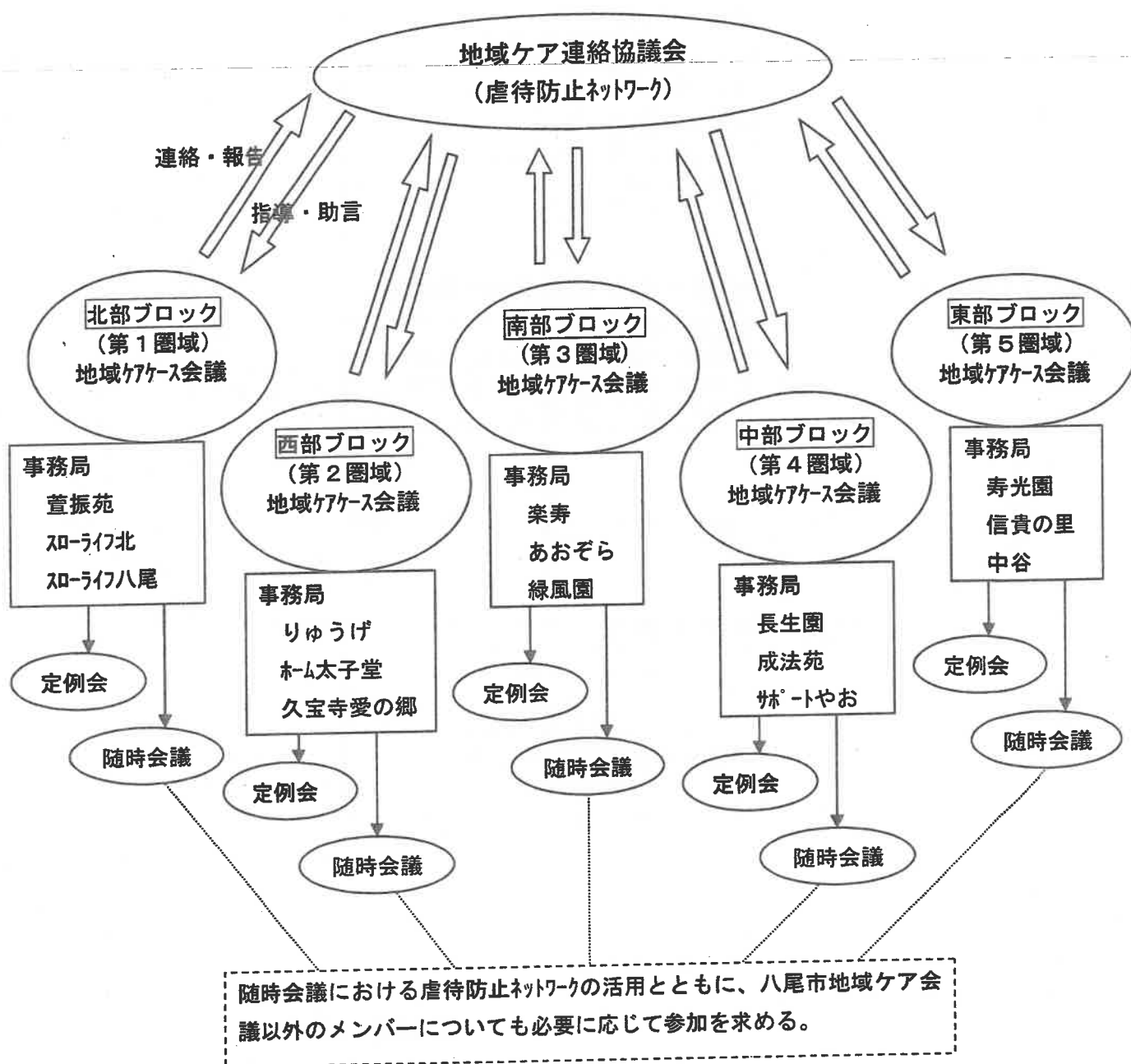
3. 成年後見制度市長申立件数

市長申立件数	R3年度	R4年度	R5年度
	9	7	6

令和6年度八尾市地域ケア会議体制（案）

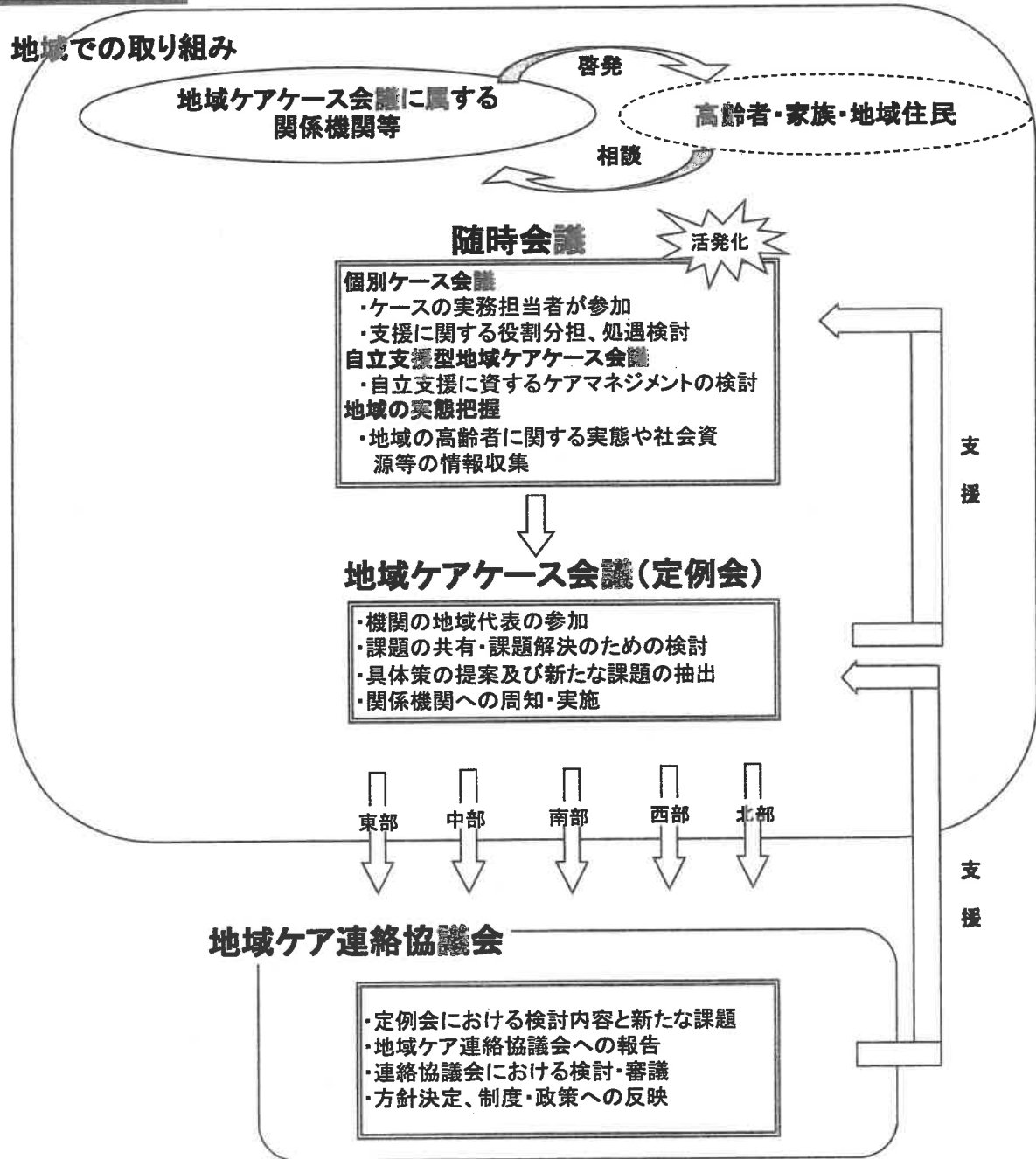
八尾市地域ケア会議

医師会・歯科医師会・薬剤師会・弁護士会・警察署・保健所・社会福祉協議会（地区福祉委員会）・
民生委員児童委員協議会・訪問看護ステーション連絡会・居宅介護支援事業者部会・認知症疾患
医療センター・消防署・地域包括支援センター連絡会・八尾市・その他必要な機関

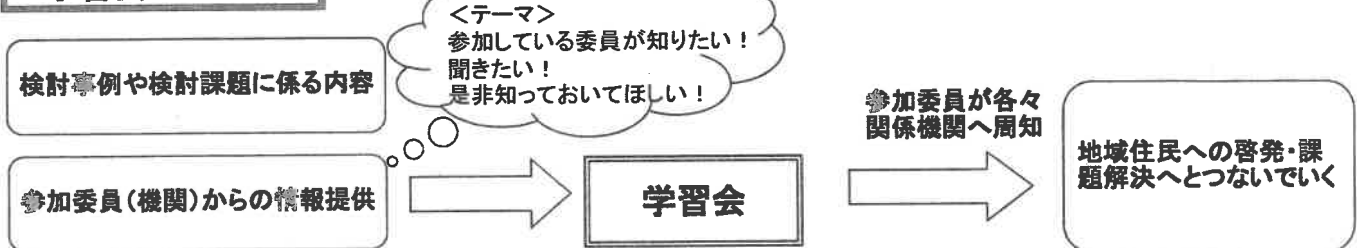


令和6年度 地域ケアケース会議の方向性(案)

1. 地域の課題解決



2. 学習会



令和6年度 地域ケア会議 年間予定表(案)

会議名	地域ケア 連絡協議会	地域ケアケース会議 定例会					地域ケアケース会議 随時会
日程	年2回	各ブロック 年6回 (隔月 第4木曜日)					随時
事務局	八尾市健康福祉部 高齢介護課	北部	西部	南部	中部	東部	各ブロック事務局
		(第1圏域)	(第2圏域)	(第3圏域)	(第4圏域)	(第5圏域)	
		萱振苑 スローライフ 北 スローライフ 八尾	りゅうげ ホーム太子堂 久宝寺愛の郷	楽寿 あおぞら 緑風園	長生園 成法苑 サポートやお	寿光園 信貴の里 中谷	
令和6年4月	第1回予定	令和6年5月合同定例会開催予定					随 時
令和6年5月							
令和6年6月		27				27	
令和6年7月			25	25	25		
令和6年8月		22				22	
令和6年9月			26	26	26		
令和6年10月		24				24	
令和6年11月			28	28	28		
令和6年12月		26				26	
令和7年1月			23	23	23		
令和7年2月	第2回予定	令和7年2・3月合同定例会開催予定					
令和7年3月							

令和5年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書

令和5年度八尾市認知症初期集中支援事業実施報告書

チームオレンジ活動について

(中間報告)

令和5年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書（医療法人 清心会）

【認知症地域支援推進員業務】

R5年12月末現在

業務実績	今後の予定
1. 地域におけるネットワーク体制の支援 関係機関に対してPR 131回 （チームオレンジ活動、施設・事業所訪問等） 地域ケア会議等への出席 12カ所/2人 2. 地域における認知症高齢者やその家族を支援する相談支援や体制の構築 - 相談件数 115件（実件数 67件） 内 若年性認知症 10件（実件数 4件） 【内訳】本人・家族27件、関係機関40件 * 関係機関では、他市からの相談も増えている - 認知症サポーター養成講座 19回 - 認知症高齢者声掛け体験 2回 - 包括家族介護・介護予防教室など 19回 - オレンジパートナー養成研修 1クール（2時間×2日間） - 地域福祉デビュー講座（認知症理解）2回 - 介護予防サポーター会議 2回 - オレンジパートナーのつどい 1回 - 認知症キャラバンメイト連絡会 1回 - やおオレンジカフェ連絡会 1回 - やおオレンジカフェ 18回 - 認知症カフェ講座 1回 - おれんじ教室“脳りちゃん” 205回/8カ所 - オレンジパトロール 47回（5地域） - おれんじルーム（認知症介護者交流会）7回/2カ所 - 認知機能集団検査“ファイブ・コグ” 1回 - 地域、団体へ認知症（予防）教室・講座 7回 （薬剤師会・あさおき会・刑部すみれの会・シルバー人材センターきらめきフェスタ・高砂地区・傾聴ボランティアえくぼ・歌体操ボランティア） * アルツハイマー月間イベント（9月）開催 - オレンジパトロール（清掃活動編） - 認知症啓発上映会“次世代へのバトン・AIを活用した認知症介護の可能性” - やおオレンジカフェ“まちがってもいいランチショー” - 八尾図書館 認知症関連展示	・ 包括、介護保険事業所等と定期的に認知症に関する地域課題の情報共有を行う機会をもつ。 ・ 地域ケア会議へ出席し、関係機関へ認知症支援活動の状況を定期的に発信していき、連携機会を定期的に持てるようにしていく。 ・ 認知症相談窓口“やおオレンジダイヤル”の啓発として、認知症の人がチラシの挿入作業の協力してくれた“オレンジティッシュ”を関係機関に配架、配布を行い、やおオレンジダイヤルが認知症の気軽な相談窓口として機能していくように努める。 ・ 認知症本人、家族の声を地域へ情報発信する機会をつくる。 ・ “認知症の正しい理解”の情報を更新するため認知症サポーター養成講座を全圏域開催で企画していく。また、地域団体、民間会社への啓発機会を働きかけていく。 ・ キャラバンメイトの活動が身近な地域で持てる機会をつくりながら、市全体での啓発体制を強化していく。 ・ キャラバンメイト、オレンジカフェ、オレンジパートナーの連絡会を開催しながら情報交換や連携体制を構築していく。 ・ 認知症への関心、興味を地域で持てるように多機関と連携しながら啓発機会を作っていく ・ 認知症高齢者声掛け体験の機会を増やし、地域での見守り体制を構築していく ・ オレンジカフェ開催、地域カフェ開催など関係機関と連携して行い、居場所作りの働きかけを行う。 ・ 認知症初期、MCIなどの方への社会資源として、おれんじ教室（脳トレ教室）を開催。誰もが気軽に楽しみながら人と早期につながりをもてる居場所をつくっていく。 ・ オレンジパトロールの活動を地域活動の一環としてできるように高齢分野以外の課との連携を考えていく。 ・ オレンジパトロールの活動を通じながら認知症本人交流会としても開催していけるようにする。（認知症本人の“声”をきく） ・ 認知症の家族支援の場として、おれんじルー

3. 認知症ケア及び医療との連携体制構築に対する支援 ・医療機関との連携 8回 ・関係機関との会議に参加 72回 (包括、地域の会議、認知症初期集中支援チーム員会議、地域密着型サービス運営推進会議など) ・中河内地区認知症施策関連連絡会開催 1回 ・認知症対応力向上研修実施(動画配信) 居宅介護支援事業所向け：八尾こころのホスピタル「シニアデイケア」の概要、事例紹介、認知症支援における現在の課題等 施設職員向け：施設内での認知症介護の工夫とケアのポイント等 在宅サービス職員向け：レビー小体型認知症についての基礎的知識と支援のポイント等 4. 事業の推進に関すること ・各種研修、勉強会、講座、認知症疾患医療センター受診同席(OJT)等へ参加 64回 ・大阪府認知症地域支援推進員連絡会参加 1回 ・認知症地域支援推進員(現任者)研修 各 1回 ・オレンジコーディネーター研修 1回 ・大阪府高齢者虐待基礎研修 1回 ・若年性認知症に関する研修 1回	ム(認知症介護者交流会)を定期開催していく。また参加者の声を形にして地域に発信できるようにしていく。(“話せて気持ちが楽になった”を形にできれば) ・チームオレンジ活動として、おれんじ教室やオレンジパトロールにオレンジパートナーが多く参加できるような仕組みを考えていく。 ・若年性認知症本人の定期的な活動、集い場所を作る。 ・認知症疾患医療センター、包括などと定期的な情報交換を行い、医療、介護など多職種連携を円滑に行えるように関係機関へ働きかけていく。 ・認知症初期集中支援チーム員会議に出席して、個別ケースから見える地域課題の抽出を行う。また、ケースに応じて本人の社会参加支援、家族支援に繋げていけるようにする。 ・中河内地区認知症施策担当者と支援体制や活動状況の情報共有、意見交換を行いながら、広域での連携体制を構築して行く。 ・認知症支援、施策に関する研修に参加して、常に新しい情報を収集し、地域に向けて発信する機会を作る ・認知症疾患医療センターの受診同席やカンファレンス等に同席し、本人、家族、支援者などの思い、鑑別診断の理解を深める。 ・認知症地域支援推進員研修に参加することで、全国の認知症支援活動を知り、自己の活動に活かす
--	--

令和5年度八尾市認知症初期集中支援業務実施報告書（医療法人 清心会）

【認知症初期集中支援推進事業】

R5年12月末現在

業務実績	今後の予定
1. 支援チームに関する普及啓発 - 各種会議に参加 - 地域包括支援センター管理差会議 - 虐待レビュー会議 - 地域ケアケース会議 - 地域ケアケース会随時会議 等 - 中河内認知症施策関連連絡会出席 2. 認知症初期集中支援の実施 - 新規相談 20件 - 新規介入件数 14件 - 訪問件数（延べ） 98件 - サポート医訪問件数 5件 - 終了件数（前年度からの継続ケース含む） 13件 - 連絡・調整件数 159件 - チーム員会議 31件 - モニタリング 9件	- 今後も引き続き、地域の中で対応困難とされるケースについて、随時会議に積極的に参加し、支援についてともに検討する。 - ごく軽度の認知症やMCIで、既存のサービスにはつながらないケースについて、個別性に応じた活動が可能となるよう、認知症地域支援推進員と連携する。 - 認知症疾患医療センターで把握したケースに対し、認知症についてより専門的な支援が必要な場合は、地域包括・初期集中・疾患センターと有機的な連携ができるよう、地域包括へ働きかける。 - 中河内認知症施策関連連絡会に出席し、支援終了が難しいケースについて事例検討を行い、支援の在り方についてともに検討する。

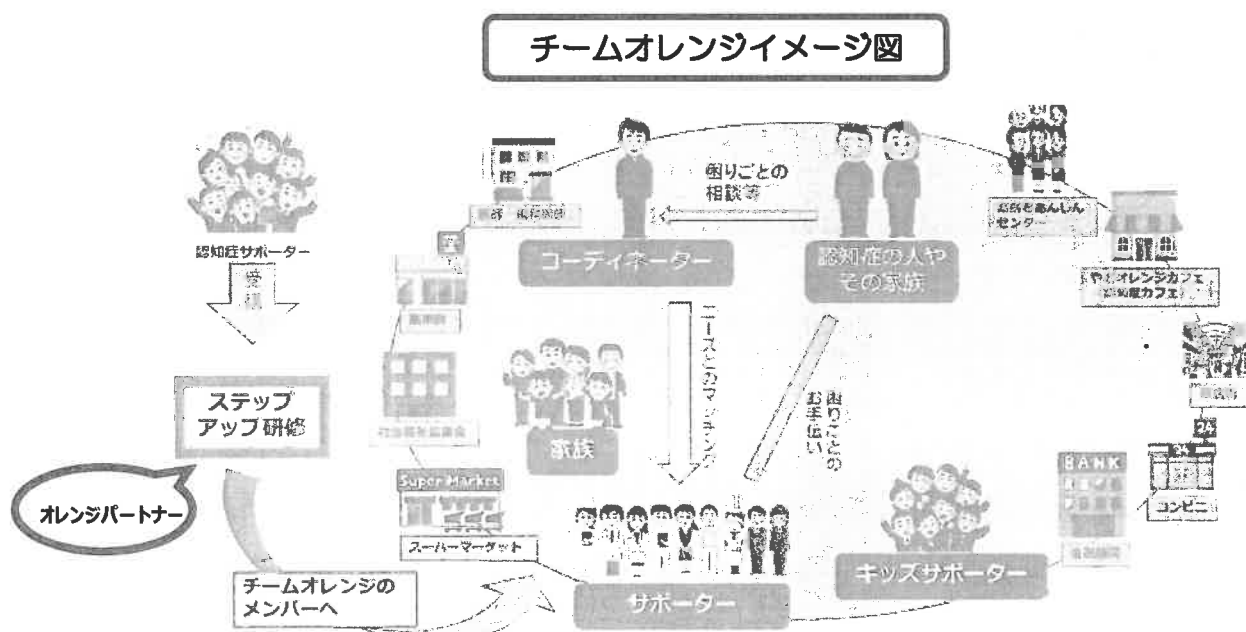
チームオレンジ活動について

チームオレンジとは、認知症の本人やその家族を早期の段階から地域で支えるため、オレンジパートナー等が認知症の本人やその家族への支援を行う仕組みの事です。

チームオレンジ活動報告（R5年4月～12月）

時期	内容	活動従事者
①通年 ②令和5年9月	オレンジパトロール ①街歩き ②清掃活動	・ 本人、家族 ・ オレンジパートナー ・ ケアマネジャー ・ 民生委員 ・ 高齢者あんしんセンター
令和5年9月	まちがってもいいランチショー	・ 本人、家族 ・ オレンジパートナー ・ 認知症カフェ職員
令和5年9月	認知症啓発講演会上映会 「次世代へのバトン～AIを活用した認知症介護の可能性～」	・ 本人、家族 ・ オレンジパートナー
通年	おれんじ教室“脳りちゃん” (脳トレ教室)	・ 本人、家族 ・ オレンジパートナー ・ 高齢者あんしんセンター
通年	おれんじルーム (認知症介護者交流会)	・ 家族 ・ ケアマネジャー ・ 高齢者あんしんセンター

※全ての活動は、認知症地域支援推進員が中心となって実施しています。



＜出典：厚生労働省作成資料を元に一部改編＞

令和5年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書
(中間報告)

令和5年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書(社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会)

1. 地域資源の把握

実績	評価と今後の課題
(1)「やお地域資源 MAP」の更新 ・地域活動編(中学校区別) ・媒体:インターネット(随時更新)紙(年1回更新) ・新規申請件数:1件 (2) 地域活動等の把握:計79回 (3)地域活動(者)の相談対応:53件 (4)「ガイドブック」の作成 ・掲載機関への取材:1件 ・シニア向けオリエンテーション等で配付(年2回更新) ----- 高齢者を対象とした行事や講座、ボランティア活動など八尾市内で参加できる情報を収集し、ガイドブック(活動一覧表)を作成した。	(1)「やお地域資源 MAP」は無料サイト使用のため、サイト管理者の都合による利用停止の可能性がある。Webで地域資源マップの閲覧が難しい方に向けての紙媒体の編集も続けていくが、令和4年度から作成しているガイドブックとの併用に向け記載内容を検討していく。 (2)徐々に地域活動が再開したり、新しい活動メニューで開催したりする地区が増え、訪問の回数も増加した。今後も継続して活動を実施できるよう支援を続けていく。 (3)地域活動の様子を動画撮影し、紹介できるようにする。 (4)八尾市内で高齢者が楽しめる施設や事業などの取材をし、ガイドブックを更新し、八尾市内の活動紹介をする「シニア向け地域福祉オリエンテーション」の参加者等に配付した。これからも内容更新に努める。

2. 地域資源の開発

実績	評価と今後の課題
(1) 高齢者ふれあいサロンの開設・運営支援 ・相談等対応:5回 ・聞き取り調査:【対象】登録5団体 【内容】活動の現状把握 ・新規サロンの相談:1回 (2)高齢者向けアンケート ・山本図書館:61件(聞き取り) ・八尾図書館:53件(設置)	(1) 既存のサロンに電話や訪問での聞き取りを行った。再開を検討しているサロンが数件あった。各サロンの活動環境、開催方法などを把握し、支援を続ける。 (2) このアンケート結果を元に、地域活動にたずさわっていない方や、興味がない方へのアプローチ方法を図る。

3. 関係者によるネットワークの構築

実績	評価と今後の課題
(1) 第一層協議体:計1回 ・意見交換会:計0回 ・高齢介護課(担当)との打ち合わせ:計9回 ・協議会事前打ち合わせ(座長):計1回 (2)活動再開について話し合う場:計1回 (3)関係機関の会議出席 ・高齢者あんしんセンター関連:計10回 ・地域ケアケース会議:計8回 ・その他の関係機関会議:計2回 (5) SCの取り組み等説明:計3回 (6) SC研修会・会議への参加:計5回	(1)協議体委員相互の地域課題や連携強化を目的に担い手に関するグループワークを実施した。地域で意見を活用する。 (3) 地域ケアケース会議に参加する。 (6)大阪府下の研修に参加し、これまでよりも幅広い情報を得ることができた。

4. 生活支援や介護予防の担い手の養成

実績	評価と今後の課題
(1) 何か活動したいと考えている方向けの講座の実施 ・シニア向け地域福祉オリエンテーション講座 (2回実施：参加者42名) ・シニア向け地域福祉デビュー講座 (2クール実施：参加者29名) ・ガイドブックツアー (2回実施：参加者10名) ・シニア向け地域福祉リーダー養成講座 (1回実施：参加者8名)	・令和6年春に向けて実施予定の次回オリエンテーションに向けてガイドブックの実施を図る。 ・ボランティアセンターと連携し、ガイドブックツアーを充実させる。

※会議など出席回数は、すべて複数人参加による重複を除いてカウント。

※SC:生活支援コーディネーター